

10月2日(土)・大会2日目 11:00~12:20 (D会場: 1101) (80分)

●セッション【15】

「日本ネタはまだウケるのか:HRM, ガバナンス, 文化生産」

*遠藤貴宏(ビクトリア大学准教授・神戸大学リサーチフェロー)

梁取美夫(早稲田大学教授)

内田大輔(九州大学准教授)

*セッション・リーダー

[概要]

本オンラインセッションでは、「文化生産から見た日本ネタ」について異なる専門性や立場から議論する予定です。まずセッション・リーダー兼司会の遠藤から「文化生産の視点と日本ネタ」というタイトルで報告します。次に、梁取教授から「HRM 研究と日本ネタ」というタイトルで近年の研究活動についてご報告をいただきます。続いて、内田准教授より「ガバナンス研究と日本ネタ」というタイトルでご報告をいたします。最後に、文化生産に関わる、評価、規範、報酬に関するディスカッションを行う予定です。このセッションを通じて、いわゆる「日本ネタ」のあり方を多角的に議論したいと思います。

[参加者へのメッセージ]

研究テーマをどう決めますか?「私は知的好奇心に基づいて決めています!」という方もいらっしゃるかもしれません。ですが、文化生産の視点によれば、我々研究者の身の振り方は、「評価」と切り離せないと言われています。正直にいえば、自分が興味を持てると同時に、そこそこ「評価」もされそうなテーマにしたいという方が多いのではないかでしょうか。この際の「評価」をする主体は、誰なのでしょうか?少なくとも、学会と実務では必ずしも評価が同一ではないようです。また、学会といつてもどの地域のものかという点でも評価の方向性にはらつきがあるように見えます。